

令和元年度 学校評価 パワーアッププラン

学校名	丹波市立黒井小学校
-----	-----------

○目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p> <p>地域に誇りを持ち 未来を切り拓く 黒井っ子の育成（自立・協働・創造）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共生社会の形成 ・ビジョンの共有 ・組織対応力 	<p>本年度の重点目標</p> <p>I 学びの基盤をつくる(言語能力の育成/身体能力の育成/共生社会の実現)</p> <p>II 主体的に学びに向かう子供の育成(キャリア教育/たんばふるさと学の推進)</p> <p>III 新学習指導要領に基づいた学習活動の推進</p> <p>IV 質の高い効率的な組織運営の実現</p> <p>V 社会に開かれた教育課程</p>
---	--

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取組状況(○)と改善の方策(●) ア=アンケート結果
学校運営	開かれた学校づくり	子どもを育てる「共育基盤」を形成する。	B	<p>○学校運営協議会で黒井小コミュニティ・スクールの方向性を確立した。</p> <p>●熟議で出された「コミュニケーション能力の育成＝挨拶の慣行」を地域ぐるみで実現させていく。</p> <p>ア学校は保護者や地域との協働を進めていると答えた保護者。97%</p> <p>○地域教材や地域人材の活用を十分に行い教育効果があがった。</p> <p>ア地域学習や体験的な学習を取り入れたと答えた教員。100%</p>
	組織運営	学校経営方針をもとに課題を明らかにし、指導方針を揃える。	A	<p>○教職員に、何を努力すればよいかの共通認識があり、教育効果を上げた。</p> <p>○児童や学年の情報共有を徹底した結果、変化への感度が高くなり、迅速な対応や、安心・安全な学校づくりが進んだ。</p> <p>ア困ったとき先生に相談すると答えた児童。83%</p> <p>学校は相談しやすい関係づくりに努めていると答えた保護者。92%</p>
教育課程	指導方法の工夫改善	対話的で深い学びとなる授業づくりの研究と、学びに向かう集団作りに努める	A	<p>○言語能力の育成を軸に、国語科の研究に重点を置いた。教職員は力量を高めながら児童の学力形成に尽力し、成果をあげた。</p> <p>ア学校の授業は楽しくわかりやすいと答えた児童。94%</p> <p>学校はわかりやすい授業の工夫をしていると答えた保護者。94%</p> <p>○論理的に話し合い学習を深める集団作りに努め、6年生では積み上げの成果が見られた。各学年では、文章の長さや問題の量で心が折れないような根気や最後までやり抜く粘り強さが身についている。</p> <p>根拠 全国学力・学習状況調査(6年)で全国平均を上回った丹波市学力定着度調査で、4～6年生において同一学年経年比較が、前年度の正解率を上回った。3年生は、4月当初の課題を克服し力を伸ばした。</p> <p>●聴く力を高め、対話を通してよりよい考えを導き出す力をつける</p> <p>●教育内容の精選、家庭や地域に委ねる部分を明確にし、教員の労働環境改善を目指し、教材研究や授業準備時間を確保する。</p>
	特色ある教育課程	ふるさと学習や体験学習を通し黒井に対する誇りと愛着心を育てる。	A	<p>○地域の自然、歴史、産業、人との関わりにおいて、地域と連携した「黒井ふるさと学」を計画通りに実施し、自分らしさの確立につなげた。</p> <p>ア黒井の地域や人のことが好きだと答えた児童。94%</p> <p>●6年生が、自らの提案で地域の清掃活動を行った。今後も地域貢献に発展するふるさと学習を進める。</p>
課題教育	特別支援教育	共生社会の実現をめざす。	B	<p>○児童個々の支援方法について教職員間の共通理解を図った。</p> <p>○適切な時期に、保護者や児童に啓発活動を行った。</p> <p>○保護者(含む就学前)の悩みや相談には、積極的に関係機関と連携し、具体的な改善策を提示することができた。</p> <p>●授業のユニバーサル・デザイン化(特殊な設計や調整をすることなく、できる限り多くの人々が利用できる)を取り入れ、教職員の力量を高める。</p>
	キャリア教育	主体的に学びに向かう児童を育てる。	B	<p>○ロールモデル(こんな人になりたい)を持たせるために、高学年のリーダーシップの育成に全教職員で取り組み、社会人との出会いを積極的に設けた。</p> <p>ア将来の夢や目標を持っていると答えた児童。89%</p> <p>子どもは将来の夢や目標を持っていると答えた保護者。77%</p> <p>○全学年ともに、適確な目標設定と振り返り活動の習慣化に取り組み、自己有用感を高めることができた。</p> <p>●意欲を持ち自ら伸びていく素地を作ることに、学校・家庭・地域の役割を分担し、力を注いでいく。</p> <p>ア目標の時間(学年×10分)以上家庭学習をしていると答えた児童。33%</p>

※領域(3領域) 学校運営、教育課程、課題教育 ※評価の観点例(網羅するのではなく、各学校で観点を絞る)

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A: 優れている B: おおむね良好 C: やや改善 D: 要改善

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<p>(A)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よいアンケート結果が取組状況を示している。 ・恵まれた地域教材の活用や地域人材の協力は、十分にできており地域ぐるみで子どもの育成に関わっている。 ・6年生が卒業前に地域貢献したことも、教育効果の現れである。
<p>(A)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題行動が少なかったことが、指導の一貫性や対応力、保護者との連携ができていたことの結果である。 ・安心安全な学校づくりがすすんでいると感じる。
<p>(A)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和系を活用し、意見の深め方をしらせてやってほしい。 ・友達の発言を聴いて、自分の意見を深めることが十分ではないので、今後取り組んでほしい。 ・ディベートを、例えば阪神と巨人のどちらが好きか、といった内容で行うなど、児童の興味のある題材を取り上げるとよいのではないかと。 ・自信を持って自分の意見を言える子が増えているし、今後も高めてほしい。 ・教育系企業が作っている Web 教材、タブレット教材は、子どもの興味ややる気を引き出すように作られている。そういったものから、授業の工夫や、褒め方、助言の仕方を、教師も学べる。
<p>(A)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年生が卒業前に地域貢献したことも、教育効果の現れである。 ・恵まれた地域教材を、地域の人材を活用して取り組んでいる。今後も応援したい。
<p>(B)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の研究の効果が出ている。 ・細かいところばかりに向いてしまうと窮屈感もでてくるため、バランスをとってほしい。 ・1人の教師の力では、配慮しきれない部分もあると感じる。
<p>(B)が適切な評価である</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの試合に行くと、阪神間のチームに委縮し力が発揮できないことがある。広い世界を知り、自分をしっかりと確立することが大事である。 ・地域の行事や祭りでも、子どもたちに好きなことを考えさせて実現してやるようなことがあってもよい。 ・子どもに興味のあることに、もっとたくさん出会わせてあげたい。
<p>自己評価の実施方法についての評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月と12月のアンケート結果に変化が見られず、改善が見える評価項目へ改善していきたい。 ・行事ごとに保護者の意見を収集し改善につなげた。 ・アンケート結果や学力調査の結果考察を、保護者通知、ホームページで公表した。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

学校運営協議会の地域でのリーダーシップが期待できる中、地域・学校・家庭の本来の役割を、それぞれが果たし、さらには、協働でことに当たっていききたい。

令和2年3月16日

丹波市立黒井小学校 校長 内田順子

学校関係者評価のまとめ

学校と家庭が手を取り合って子どもを育成できている。次年度も本年度の取組を継続させてほしい。

